イベントで出会う

本気度が高いイベントで
理想にぴったりなパートナーに出会う

芝桜さん さくらさんご夫妻
20代後半

2021年春に開かれた「ぐんま赤い糸プロジェクト（以下、あいぷろ）」のイベントに参加。たまたま席が隣同士となり、お互いに好印象を抱きました。2回目のデートで芝桜さんから交際を申し込み、初デートからちょうど1年後に入籍。結婚後、お子さん（ひまわりちゃん）に恵まれ3人家族に。さくらさんの育児休暇が終わった今、結婚前から理想としていた「夫婦で協力する子育て」を楽しんでいます。

レポータープロフィール

結婚観▶仕事が落ち着き、人生設計を考え…

20代半ばになって仕事が落ち着き、将来を見据えたお付き合いをしたいと考えていた芝桜さんと「30歳までに子どもがほしい」と思っていたさくらさん。市の広報で紹介されていた「あいぷろ」のイベントに申し込みますが、運命の人にすんなり会えるとは思っていませんでした。

婚活のきっかけ▶共働きで協力し合える仲良し家族

芝桜さんは、育児に積極的に関わる職場の先輩の姿を見て「素敵だな」と感じていました。さくらさんも、結婚相手には働きながら支え合える関係を希望。「仲の良い家庭を築きたい」というのはお二人共通の願いでした。

街コン、アプリを経験後、広報で紹介されていた「あいぷろ」に参加

20代前半にマッチングアプリに登録したり、友人に誘われて街コンに参加したり、早い段階で婚活を始めていたお二人。芝桜さんは街コンでもアプリでもピンとくる出会いがなく、活動をやめてしまいました。さくらさんはアプリを通じて2人の男性と会いました。事前にアプリのメッセージ機能を使ってやりとりはしたものの「まったく知らない人に1対1で会うのは不安でした」と振り返ります。結局どちらとも次の約束はせず、残ったのは疲労感だけ。婚活熱は冷めてしまいました。気づけば2年が経過。「このままでは、30歳までに出産したいという夢が叶えられないのでは…」と焦りにも似た気持ちが湧きあがった2021年の春、市の広報に掲載の「あいぷろ」のイベントをお母さまに教えてもらい、早速申し込みました。

一方、芝桜さんは仕事が落ち着き、再び婚活を考え始めた矢先、さくらさんが目にしたのと同じ広報でこのイベントを知ります。「広報に載るくらいだからしっかりとしたものに違いない」と、参加を決めました。

スタッフの気遣いで和気あいあい隣同士になった運命の人

参加したのは、クラフト作りをしながら親交を深めるイベントでした。集まったのは20～30代の各10人ほど。「真剣に婚活に取り組んでいる人が多い」と感じました。参加者の中で、芝桜さんとさくらさんは若いほう。一人で来ている人ばかりでスタッフが交流を持てるよう随時声掛けをしてくれたため、孤独感を抱くことはなく、自然に溶け込めたそうです。

芝桜さんの理想は、話していて自然体でいられる人。できれば、近隣に住み自分の年齢±5歳くらいの人に会えたら、と思っていました。さくらさんの望みは、誠実で真面目な人。ある程度の社会常識があることと、働いていることは必須で「いずれ子どもが欲しいと思っていたため、相手も望んでいるかどうかは気になりました」と話します。

そんな2人は隣同士に。芝桜さんは「落ち着いていて、優しそう」と、さくらさんは「優しそうな人が隣で良かった」とお互い好感を持ったそうです。「食べることが好き」というお二人は、おすすめの飲食店の話で盛り上がりました。

初めてのデートで感じた居心地のよさ 2回目のデートで交際申し込む

「連絡先交換タイム」で全員と連絡先を交換。イベント終了後、さくらさんは全員にお礼のLINEを送りました。食事のお誘いがあった3人の中に本命の芝桜さんも含まれていて、さくらさんの心は躍ったそうです。

芝桜さんは何人かとやりとりをしましたが、誘ったのは一番話しやすく「もう一度会いたい」と思ったさくらさんだけ。LINEで連絡を取り合い、イベントから2週間たった4月4日に初デートをしました。お昼にパスタを食べて、公園でお花見。さらにケーキ屋さんでお茶、と初めてのデートで長時間過ごしても会話が途切れることはありませんでした。訪れた公園の桜がほとんど散っていたため「また一緒に桜を見に行きたいね」と自然な流れで次のデートの約束をしました。

それからは、朝昼晩と一日3往復のLINEが習慣に。お互いのこと、家族のこと、その日にあったことなどを連絡し合いました。さくらさんが仕事の悩みを口にしたとき、芝桜さんが優しい言葉で励ましてくれ「頼りになる」と一層強く惹かれていきました。

さらに2週間後。2回目のデートでは、お花見を兼ねて食事に行きました。「一緒にいて楽しく居心地が良い」と感じた芝桜さんが告白し、さくらさんはその場でOK。結婚を前提とした交際が始まりました。

共通の趣味で深まる交際 結婚後のイメージが湧いたことが決め手

その後は、土日のどちらかと平日の仕事帰りにご飯デートを重ねたお二人。インスタで見つけたり友人のお勧めを聞いたりして集めた情報を頼りに、ラーメン屋さん、焼き肉屋さん、カフェなど県内各地を回りました。食の好みだけでなく、モノよりも経験にお金を使うという金銭感覚も一致。ケンカをすることなく、交際を深めていきました。

芝桜さんの中で決定打になったのは、この年の秋、ご実家でご両親やご兄弟家族がそろって開いたバーベキューでの出来事。「甥や姪と楽しそうに遊ぶ姿を見て、結婚後のイメージが沸き上がり『結婚するならさくらさんしかいない』と確信しました」と言います。さくらさんは、仲の良い芝桜さんファミリーに囲まれ「一員になれたら幸せだろうな」と思ったそうですが、結婚を意識したのはなんと出会ったその日。「直感でビビっと来た」とはにかみながら教えてくれました。

初デートから1年、4並びの日に入籍 家族が増え、理想通りの暮らしを満喫

「初デートの1年後が令和４年4月4日で4がそろう日に入籍を考えていた」という芝桜さん。逆算し、年内にはプロポーズをしようと決めました。さくらさんの誕生日である12月23日、初デートをしたお店に行った帰りに車の中で正式にプロポーズ。店内ではなくあえて車の中を選んだのは、恥ずかしがり屋のさくらさんを思ってのことでした。翌日のクリスマスは、2人でディナー。「幸せな2日間。人生で一番幸せだと思いました」とさくらさんは頬を赤らめます。

翌年には、ひまわりちゃんが誕生。芝桜さんは、特別休暇をとって積極的に育児や家事に関わりました。さくらさんが復職した今、芝桜さんは朝の洗濯、夜の料理、休日はひまわりちゃんの遊び相手を担当。さくらさんは、ひまわりちゃんの送迎、洗濯物を畳む、芝桜さんがひまわりちゃんの相手をしている間に家事を丸ごと、と協力し合って結婚前に描いた理想どおりの毎日を送っています。

「道を切り拓いてくれた先輩たちと、休暇中にフォローをしてくれた同僚のおかげで生まれて間もない子どもと触れ合う時間が持て、感謝しています」と謙虚に語ります。

将来は「キャンピングカーで全国を回りたい」という芝桜さん。当初は難色を示したさくらさんも、最近では「いいかも」と思うようになったとか。未来の楽しみが増えました。

婚活している人へ 自分から行動。 気軽な気持ちでの参加もアリ

結婚して「人生で最も大きなやることリストをクリアした気がします」という芝桜さんの隣で「家事や育児が自分にできるか不安でしたが、助け合いながら理想の毎日を送れて充実しています」とほほ笑むさくらさん。

芝桜さんは、大好きという「スヌーピー」の「もし何かをちゃんとやりたいんなら、自分でやるべきだよ！」という名言を挙げ、こうアドバイスします。

「待っているだけでは自分の望みは叶えられません。期待を裏切られて、傷ついたり、思い通りに行かなかったりすることもあるかもしれませんが、そんなときは『あいぷろ』のスタッフが相談に乗ってくださると思うのでまずは行動を」と。

さくらさんは「イベントに参加する前は『いい人には出会えないだろうな』『嫌な思いをして終わるんだろうな』とネガティブに考えていました」と打ち明けます。ところが、スタッフや参加者全員が優しくとても良い雰囲気で、自分らしく心地よく過ごせたそう。そして、運命の人に巡り合うことができました。「友達ができたら良いな、という気軽な気持ちで参加しても良いのでは？」と感じたそうです。

「一歩踏み出すのは、とても勇気がいることだと思いますが、多くの人の希望が叶い、良いご縁があることを願っています」とエールを送ってくれました。

参加したあいぷろイベントについて

目的や趣味などに合わせて 選べるイベント スタッフのサポートも心強い

あいぷろは、結婚を考えている人の出会いを応援するイベント。令和5年度は70回ほど企画されており、各企画に対して氏名･性別･住まい･年代･電話番号などをメールで送って申し込みます。定員に達した場合は抽選になり、メールで結果が知らされます。

イベント内容は、ワークショップや食事や自然を楽しむもの、カップル発表があるものやないものなどさまざま。「同じイベントを選ぶことで、趣味趣向が似ているという目安になると思います」と芝桜さんは言います。

お二人が参加したのはワークショップ系でカップル発表はなし。男女とも参加費は2,000円、身分証明書の提示とマスク着用（当時はコロナが広がっていたため）が求められました。一緒にクラフト作りを楽しみつつ、お茶をしながら席替えをして参加者全員と交流できるよう工夫されていました。その後、参加者全員で周辺を散策。自然な交流に加え「連絡先交換タイム」があったことで、連絡先をスムーズに交換することができました。

イベントの良さは、一度に複数の人と実際に会って話せること。スタッフの存在も貴重です。参加者同士が自然に連絡先の交換ができるよう呼び掛けたり、異性との交流に慣れていない参加者にはさりげなく声をかけて交流を促したり、と気を配ってくれるので安心して参加できます。「献身的にサポートしてくれたスタッフさんには感謝しかありません」と芝桜さん。

「顔を合わせたことのない人と何度もやりとりを重ねるアプリを大変と感じる人にはおすすめです」と話してくれました。

あいぷろURL

https://smilelife.pref.gunma.jp/encounter/event/